

2024 年度(令和6年度)学校評価自己評価表

幸千中学校区	校番 15	福山市立御幸小学校
最終更新日 2024年(令和6年)9月30日		

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100EN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに力をつけるために、先生方が新しい手法・ツールを摸索しながら、多様な取り組みをされている。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、連携をさらに深めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●不登校出現率が高い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目が少ない。 ○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が年々増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学び よく考える児童生徒 ○自分なりに表現し伝え合う児童生徒 ○思いやりのある児童生徒 ○人や社会に貢献しようとする児童生徒 ○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。 				

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	思考・想像力	表現力	思いやり	能動的市民性
一人一人が自立し、社会に貢献できる子どもの育成					
学校教育目標 自ら考え 行動し 挑戦する児童の育成 ～自考・自行・自挑～					
現 状 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会が中心となり、学校行事などで相手意識を持ち、アイデア豊かに自ら考え挑戦していた。 ・ 「授業で考えることで、わからないことがわかるようになりますか」92.4%…落ち着いて授業に向かう環境ができている。 ・ 昨年度「友だちの意見につなげて発表していますか」47% 昨年度「学級の友達との話し合い活動を通して自分の考えを広げることができた」85%…特別活動を中心に様々な教科で話し合い活動を仕組んだ。 ・ 教師や大人の指示をよく聞いて動くことができる一方、自分から気づいて考え行動する力が十分ではない。 ・ 長期欠席児童は、昨年度29名。 ・ 地域の方々の学校への協力、愛着が強く、学校を支える風土が強い。一方宅地造成等で新たな居住者も激増し、困難な課題も増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問い合わせ、見通しを持つて、調べたり考えたりしながら解決することができる。 				
研究 テーマ 内容等		問い合わせ、「対話」を通して、学びを深める子どもの育成 ～付ける力を明確にした言語活動の充実～			
		特別活動、総合的な学習の時間を中心に児童が社会・世界をよりよく変えていく学びづくり 実生活と体験活動に基づいた言葉と数の理解を深める授業づくり・単元づくり			
めざす授業の姿		児童自らが問い合わせ、つけたい力を明確にし、友達と協働しながら課題を解決して学びを深める授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立御幸小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	加セ 達成 評価 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期・経営 目標の達成状況	加セ 達成 評価 評価	総合 評価 評価	改善方策
2	自ら学びに 向かう力、 学び続ける 力を育成す る。	★	継 続	児童が自ら問 いを持ち、教材・ 他者・自己との 対話を通して、 「分かった」「で きるようになつ た」「考えが深ま った」という自 己の変容を実感 し、学力向上を 図る授業をつく る。	研究授業や校内研 修を通して、授業力 向上を図る。また、研 究主題と日々の教材 研究がつがるように 研修を行ったり、児 童の見取りりを大切に したりすることで、 授業改善を行う。	・児童アンケート「授業 を通して考えること で、分からないことが 分かるようになつたり 考えが深まつたりし た。」90%以上 ・学期末到達率80点以 上(国・算) 80%以上	□児童アンケート「授業 を通して考えること で、分からないことが 分かるようになつたり 考えが深まつたりし た。」の肯定的評価 は88.7%であったが、表 現力や活用力を高めて いく必要がある。 □学期末到達率80点以 上の割合は、国語6 6%、算数70%であ った。前年度と比較す ると、算数は数値が向 上している。しかし、 国語・算数とともに、授 業改善を行い、基礎・ 基本の学力の定着を 図る必要がある。	3 2	○学びの変容を意識し て、自分の言葉で授 業の振り返りを書か せる。また研究授業 や学び合い研修を通 じて、職員同士で学 び合い、授業力向上 に努めていく。 ○国語・算数の授業づ くりにおいて、付け る力を明確にした言 語活動の充実を図り、 検証をする。 ○日々の授業づくりに ついて写真や動画を もとに、職員同士で 交流する機会を設定 し、対話を通して、学 び合い、授業改善を 進める。				
2	互いを認め 合える豊かな心を育成 する。	★	継 続	多様な人間関 係の中で様々な 価値観に触れる ことができるよ うに、多様な集 団での活動の場 を設定し、豊かな コミュニケーション 力を高める。	縦割り班活動や、 1・6ペアなどのグ ルーピングを行つた り、児童会を中心と して代表委員会を運 営したりし、組織的 な動きの中で自己の 役割を果たす。	・他学年の友達と協 力して掃除をした り、休憩時間には遊 んだりすることができ た。 80%以上 ・委員会や係活動な どで自分の役割を果 たすことができた。 80%以上	□「他学年の友達と協力して 掃除をしたり、休憩時間には遊 んだりすることができた。」の肯定的評 価は91.0%であった。 □「委員会や係活動などで 自分の役割を果たすことができた。」の肯定的 評価は、 委員会→93.0% 係活動→95.6% であった。	3 3	○縦割り班で休憩時間 に遊ぶ「縦割り班遊び」を設け、交流の場 を増やしたい。また、 お世話になった6年 生の卒業に向けて、 縦割り班で感謝の気 持ちを伝える取組を 計画・実行していく。 ○委員会活動や学級で の取組について、各 学級裁量にゆだねて いる部分が多いので、 代表委員会をより 積極的に設け、学 校内の情報を共有し 改善につなげる。				
1	自分の生活 習慣を整 え、たくま しい心と体 を育成す る。	★	新 規	自分に必要な 体力要素を中心 に運動量を増や し、体力向上に 向けて意欲を高 めるとともに、 食事や睡眠につ いて生活を見直 し、健康への意 志を育成すること の良	新体力テストの結果 を基に身に付けたい体 力要素を決め、体育科や 家庭学習での運動に取 り組む。 定期的に食事・睡眠・ 運動を意識して過ごせ ているか自己チェック を行い、それぞれの生活 習慣を高めることの良	・自分で決めた運 動に粘り強く取り 組み、楽しみながら 体力を高めること ができる。 85%以上 ・規則正しい生活 習慣(食事・睡眠・ 運動)を意識して過 ごすことができた。	□全校で体力テストを実 施し、自分の課題となる 体力を高める運動に取 り組んだ結果、「自分で 決めた運動に粘り強く 取り組み、楽しみながら 体力を高めること ができる。」の項目 では、児童の肯定的評	3 4	○児童は家庭学習とし ての運動に取り組んで いる。委員会と連 携したり高学年に活 躍の場を与えたいた るなどして、「楽しん で運動する」機会を 前期より多く設けた い。 ○睡眠・食事について、 朝会や保健便り・食				

			識を高める。	さを児童や保護者に朝会や通信等で発信していく。	80%以上	価は86.4%であった。 □朝会・保健便り・食育便りの規則正しい生活の啓発活動や、月末に自分の生活を振り返ることで、「規則正しい生活習慣を意識して過ごすことができた。」の項目では、児童の肯定的評価は83.7%であった。		育便りで児童や家庭に向けて引き続き啓発する。休日や冬季休業の過ごし方についても、毎月の振り返りをしたり、宿題に生活を確かめられるような工夫をしたりして、児童が定期的に自己の生活について考えることができるようになる。			
2	児童は活き活きと学び、職員は活き活きと働く学校の創造	継続	学校の取組を校内外に積極的に発信し、地域、保護者、学校間で情報共有を図る。	保護者・地域を巻き込んだ教育活動を推進する。 取組の進捗や実態分析について、主任等による校内発信を活性化する。	・保護者アンケート「御幸小の取組に満足している」90%以上 ・「仕事に意義ややりがいを感じている」90%以上	□HPや通信、メール配信等でこまめに情報発信を行っている。ホームページやclassroomでは、学校行事や学年の取組を掲載し、日常的な様子を発信している。 □教育研究部や生徒指導部から定期的な通信を発信し、取組の共有を図っている。 □「仕事に意義ややりがいを感じている」職員は95%であった。	3 3	○今後も行事や各学年の取組を発信をするとともに、生活科や総合的な学習の時間の取組の一環としてゲストティーチャーとの連携をして地域とのつながりを大切にしていく。学んだことをポスターや動画、リーフレットなどで発信していく、地域・保護者の皆様と連携を図ることができるようにしていく。			

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くなつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。